
水は友達

朝倉 航

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

水は友達

【Nコード】

N7613B

【作者名】

朝倉 航

【あらすじ】

深い深い樹海を越えて、高い高い峠を越えたところにある伝説の村アトロポカリス。そこは呆れるほど平和で平凡だったが悪の組織「水の支配者」という奴らがやって来て村を支配した。だが主人公コンを含めた9人戦士は「サイキッカー」という超能力が使えるかなりの村を救える力を持つ子達だった。今、水の支配者を滅ぼす戦士達が立ち上がった！！

エピソード（前書き）

この作品は私が連載している「ナノ」につながる三大バトルの一つにしようと思っっているので、「ナノ」より、こっちの作品を先に読んでくれれば良いと思います。

エピソード

「ねえ、そこのお庭の野菜とってきて。」母は突然無理なことを言う。

「嫌だよ。拉致られたらどうすんの？私みたいなかわいい女の子なんだから。」ここは深い深い樹海の奥を越えて、高い高い峠を越えたところにあるそれなりの都会アトポカリスという伝説の村。私が拉致とかいうのは、最近この村を知った悪いやつら

「水の支配者」がここを支配してかわいいやつらを拉致していく。だから私は不安なのだ。

でも私は対抗策がある。私はサイキッカーという超能力を使える素質があつて、それを使えばへっちゃらつて思つてるんだけど、あいつらも使えるらしいからどうしたらいいか分からない。

困っている時に弟の将がきた。

「何迷つているか知つてるよ。」

こいつの超能力の特徴は人の心を読むことがでかるといふ嫌な能力だ。

「そんなに困つてるんだつたらこの村を助けなよ。あいつらに立ち向かつていけよ。でも一人じゃ無理かもな。いるだろ？コン姉さん以外に攻撃系の超能力が使える奴。」相手の心を分かつて言うからかなり憎らしい。

ちなみに私の能力は、炎と雷の超能力が使えること。まだまだ未熟だが頑張ればあいつらもより強くなれるかもしれない。

私は、戦う戦友を探しに家を出た。

1話 ピヨン

コンは、家を出て友達のパイオンのところに初めは行った。パイオンは前髪を垂らした、とても可愛い女の子でとにかくモテてる。その子もサイキッカーで、どんな能力か忘れたけど、とにかく強い感じがする。

そんなこんなで、パイオンの家に着いた。インターホンを押すとパイオンが出てきた。

「だーれ？ラ致の方ですか？なら帰って・・・！」パイオンは私を見て反応した。「よ。パイオン。」私はさりげなく挨拶した。

「大丈夫？ラ致られなかった？」パイオンが心配して言った。

さつきからラ致のことしか話してねーじゃねーか。と思いながらパイオンの家上がった。

「ねえ、話があるんだけど。」パイオンより一つ年上の私は上級生っぽく言った。

「何？話って？15才のお姉さん。」パイオンが皮肉っぽく言ったのに、少し腹をたてて話した。「話はね・・・」私は今回の戦いについてのことを細かく話した。パイオンのことだから、嫌って言うかな。と思ったが構わず話した。

「面白そう。いいよ。私もサイキッカーの力あるし。」意外だった。パイオンがこんな快く話を引き受けてくれるとは。私は他にも話した。

「パイオンはどんな能力なの？」コンは言った。自分の超能力の特徴は本能で分かっているはずだ。「えーと。鋭金と、青空の能力。」

鋭金とは、自分のこの兎の耳みたいな前髪を鋭い金属に変えて相手を突き刺す能力。青空の特徴は、空を翔べることと、一般人の50倍の脚力があること。だから、蹴りとか足踏みとかはしないようにしてるけどね。どっちもまだまだ使いこなせないから頑張らないと。

・・「ピヨンは少し後ろめたく言った。

「大丈夫！私と一緒に強くなるう。絶対あいつらを倒そう。」強くなるかは根拠がなかったけど、そう思うより先に口走った。そして私達は次の友達の家に行った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7613b/>

水は友達

2010年10月17日15時16分発行